

サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

新年あけましておめでとうございます。
毎日寒い日が続きますが、寒さなんか吹き飛ばして明るく元気に素直『明元素めいげんそ』で頑張ってくださいませよう。本年も宜しくお祈り申し上げます。
(ちなみに逆は暗くて病んで反抗的『暗病反あんびょうたん』幸せは来ないそうです。)

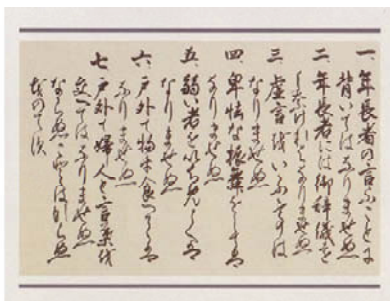
私事ですが、今年の正月は本当にのんびり過ごしました。体重は量っていませんが大変なことになっているはずです。

楽しみにしていたNHK大河ドラマ「八重の桜」がはじまり、広島市出身の綾瀬はるかさんがヒロインを演じます。第一話、第二話が終わりましたがなかなか見応えがありますね。



会津藩の幼年期の教育の基本となっている什(じゅう)の掟の最後にある『ならぬ事はならぬものです』というセリフが何度も出てきますが、これは今の社会に欠けている大事な教えだと思います。時代によって変わることもありますが、どんな時代であっても変わらない事もあります。

また、吉田松蔭や佐久間象山などが登場しますが、彼らの国を思い、止むに止まれぬ心から、死を恐れずに強いものに立ち向かっていく姿に胸が熱くなります。『八重の桜』これからが楽しみです。



什の掟

さて、新年早々元気サロンの先生方から今年に懸ける思いを聞かせて頂きましたのでご紹介させていただきます。

●店をオープンした時の初心に戻る。

・オープンした頃、初めてご来店いただいた時のカルテを見直す。

・サロンのこだわりのプロセスは時々でなく毎回説明する。

●楽をしない。逃げない。

・お客様に雑誌はお渡ししても、できるだけ読ませない様にする。お客様の髪のことでお客様が聞きたくなる話をしてコミュニケーションをとっていかないとリピートにつながらない。

・世間話だけで盛り上がりてもリピート客にはならない。
・会話をさえぎってでも施術の説明はしないとダメ。一言ですむわけですから。

・80才のお婆ちゃんでも、『きれいになりますよ』の言葉に反応して雑誌から目を離す。興味のある話には耳を傾けられる。

・好成绩なのは、他店と比べて『説明をきっちりする』ところだと思います。

●他店と圧倒的に違うことをする。

・オープン以来シャンプー20分・マッサージ10分をかけています。どんなお客様でも違いがわかってくれます。

●いつも不安な気持ちを持っている。

・オープンしてから毎日、お客様が次回来店して頂けるかどうか不安です。

・その時その時のお客様の反応、売上に一喜一憂、おどおどする自分がいる。もっと長いスパンに立って、人間性を高め、動じない自分をつくって行こうと思っています。

ある先生にこの話をすると『おどおどしているから流行っているのだと思うよ。緊張感がなく、馴れ合いになったらおしまいだ。』と言われました。

●自分を磨く

・技術はもちろん大切ですが、人間力を高め、お客様に興味のある話を発信していける人になろうと思います。

・お客様にとって話していて、会っていて楽しい人、ためになる人になろう。そのために今年読書の時間とって人間の幅を広げて行こう。

※裏面に続く

先日マクドナルドの原田社長が『学生アルバイトの定着が良い会社は時給の高さでなく、そこで働くだけで自分自身が成長できるかにある』と書いていました。

●まとめ

元気なサロン様のお話を聞いて、人は言葉でなく、言葉の中にある心で動くのだと思いました。小手先でなく、今年一年共に人間磨きに励みましょう。人は自分を成長させてくれる人、ためになる人に会いたくなるのだと思います。

私もいろんなサロンの先生方とお会いすることによって日々成長させて頂いております。いつもありがとうございます。

続いて毎日携帯に送られてくる『致知一日一言』の言葉の中からご紹介させていただきます。

●心を込める

どれだけたくさんのごことをしたかではなく、
一つひとつにどれだけ心を込められたか

* * * マザー・テレサ

●鎌倉の名刹・円覚寺。

45歳の若さで臨済宗円覚寺派管長に就任された横田南嶺老師に「人生で大事なことを伺った。

* * *

自分が何かを得たい、特別な体験をして偉くなりたいというところには魔がさしたり、思いあがったりします。

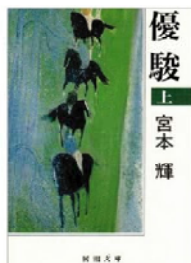
商売も同じで、自分の儲けばかり追求する人は大した商売人ではないし、すぐにうまい話に引っかかたりします。

しかし、他人様のお役に立ちたい、世の中のために何か尽くしたいと思って商いをする人は、大きな仕事ができます。

決してそんな小さなものには引っかかたりはしないのではないのでしょうか。

最後にいつもの山の素敵な本屋さんにて薦めていただいた本をご紹介します。ビジネス本中心の私でしたが、店長の紹介でいろんなジャンルの本を読むようになりました。これからもどんどん挑戦していきたいと思っております。

この本は経営者の方にと薦められました。



『優駿』
宮本 輝著

生れる仔馬が牡馬でありますように。風の申し子のように速く、嵐みたいに烈しく、名馬の天命をたずさえて生れますように…。若者の祈りに応えて、北海道の小さな牧場に、1頭のサラブレッドが誕生した。オラシオン(祈り)と名づけられた仔馬は、緑と光の原野のなかで育ち、順調に競走馬への道を歩みはじめるが、それと共に、登場人物ひとりひとりの宿命的な劇が、幕を開けた。吉川英治文学賞受賞。

下の2冊は社会人になる子供にと薦められました。



『神去なあなあ日常』
三浦 しおん著

高校卒業と同時に三重県の山村に放り込まれた平野勇氣19歳。林業の現場に生きる人々の1年間のドラマと勇氣の成長を描く。



『和菓子のアン』
坂木 司著

デパ地下の和菓子店「みつ屋」で働き始めた梅本杏子(通称アンちゃん)は、ちよっぴり(?)太めの十八歳。プロフェッショナルだけど個性的すぎる店長や同僚に囲まれる日々の中、歴史と遊び心に満ちた和菓子の奥深い魅力に目覚めていく。謎めいたお客さんたちの言動に秘められた意外な真相とは?読めば思わず和菓子屋さんに行きたくなる、美味しいお仕事ミステリー。

この本をお求めになりたい方はお申し付け下さい。商品と一緒にお届けさせていただきます。
※お届けまでに少し時間がかかることがあります。ご了承下さいませ。